

- 問1 律令制のもとでは、政府が民衆を把握するために「戸籍」が作成され、それに基づき「口分田」が与えられました。この仕組みにおいて、収穫した稲の約3%を納める「租」のほかに、地方の特産物を納める税と、都での労役の代わりに布を納める税が課されました。これら二つの税の名称として正しい組み合わせを選んでください。 (2025年 長野県公立入試 類似)
1. 公事と夫役                      2. 租と庸                      3. 調と庸                      4. 防人と調
- 問2 奈良時代末期にまとめられた日本最古の歌集である『万葉集』の特色として、最も適切な説明はどれですか。 (2020年 福島県公立入試 類似)
1. 醍醐天皇の命令によって編集された、最初の勅撰和歌集である。                      2. 平安時代の中期に、平仮名を用いて女性の心情を細やかに表現している。                      3. 天皇や貴族だけでなく、防人や農民など幅広い階層の人々の和歌が収められている。                      4. 武士の台頭を背景に、力強い歌風の和歌を中心に集められている。
- 問3 東大寺の正倉院に納められた宝物が、当時の西アジアやペルシアといった遠方の地域の特色を持っている理由として、最も適切な説明はどれか。 (2016年 東京都公立入試 類似)
1. モンゴル帝国がユーラシア大陸を支配したことで、東の果てにある日本とも陸路での安全な交易が可能になったため。                      2. 聖武天皇が仏教を広めるためにシルクロードを自ら横断し、各地で収集した仏具や美術品を持ち帰ったため。                      3. 日本がペルシアやインドと直接の通商条約を結び、定期的に商船が難波津や平城京へ来航していたため。                      4. 当時の唐は広大な帝国であり、シルクロードを通じて世界中の文化が集まっており、日本は遣唐使を通じてそれらを吸収したため。
- 問4 奈良時代、日本の仏教の教えを正しく広めるために、唐から5度におよぶ渡航の失敗や失明という困難を乗り越えて来日し、奈良に唐招提寺を建立した僧は誰ですか。 (2019年 山口県公立入試 類似)
1. 法然                      2. 最澄                      3. 栄西                      4. 鑑真
- 問5 奈良時代にまとめられた日本最古の歌集で、天皇や貴族から、東国から九州の警備に赴いた防人（さきもり）まで、幅広い層の人々の歌が収められている作品はどれか。 (2020年 岡山県公立入試 類似)
1. 竹取物語                      2. 新古今和歌集                      3. 万葉集                      4. 古今和歌集
- 問6 奈良時代の中期、疫病の流行や相次ぐ政変による社会の混乱を鎮めるため、仏教の力で国家の安定を図ろうとする「鎮護国家」の思想が広まりました。この方針に基づき、全国の国ごとに国分寺・国分尼寺を建立するよう命じた天皇は誰ですか。 (2016年 富山県公立入試 類似)
1. 天武天皇                      2. 聖武天皇                      3. 桓武天皇                      4. 聖徳太子
- 問7 飛鳥時代から奈良時代にかけて、日本は中央集権的な国家体制の構築を目指しました。この時期に起きた次の3つの出来事について、古いものから順に正しく並んでいる組み合わせを選んでください。「1：大宝律令の完成、2：小野妹子の遣隋使派遣、3：墾田永年私財法の制定」 (2026年 岡山県公立入試 類似)
1. 小野妹子の遣隋使派遣 → 大宝律令の完成 → 墾田永年私財法の制定                      2. 小野妹子の遣隋使派遣 → 墾田永年私財法の制定 → 大宝律令の完成                      3. 墾田永年私財法の制定 → 小野妹子の遣隋使派遣 → 大宝律令の完成                      4. 大宝律令の完成 → 小野妹子の遣隋使派遣 → 墾田永年私財法の制定
- 問8 奈良時代には、戸籍に登録された人民に対して土地を貸し与える「班田収授法」が行われていました。この制度の基盤となった、すべての土地と人民は国家（天皇）のものであるとする基本的な考え方を何といいますか。 (2015年 岐阜県公立入試 類似)
1. 公地公民                      2. 地租改正                      3. 封建制度                      4. 検地
- 問9 律令制のもとで、正丁（成人男子）に課された税のうち、都へ赴いて年間10日間働く「歳役」という労役の代わりに、布を納めることとされたものを何といいますか。 (2016年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 庸                      2. 調                      3. 雑徭                      4. 租
- 問10 奈良時代、聖武天皇の招きを受け、日本の僧侶に正しいルールである「戒律」を授けるために来日した唐の僧侶は誰か。また、その人物が建立した、当時の唐の建築様式を伝える代表的な寺院の名称として正しい組み合わせを選びなさい。 (2023年 和歌山県公立入試 類似)
1. 鑑真と唐招提寺                      2. 空海と金剛峯寺                      3. 行基と東大寺                      4. 最澄と延暦寺
- 問11 律令制のもと、班田収授の法によって人々に与えられた口分田の面積に応じて、収穫した稲の約3パーセントを納めることとされた税の名称を選びなさい。 (2023年 大阪府公立入試 類似)
1. 租                      2. 雑徭                      3. 庸                      4. 調
- 問12 律令時代の地方行政制度において、地方を統治するために設置された行政区分の名称とその読み方の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2023年 青森県公立入試 類似)
1. 最も広い範囲を「藩（はん）」、その下に「郡（ぐん）」、末端に「村（そん）」を置いた。                      2. 最も広い範囲を「国（くに）」、その下に「郡（ごおり）」、末端に「里（り）」を置いた。                      3. 最も広い範囲を「道（どう）」、その下に「府（ふ）」、末端に「県（あがた）」を置いた。                      4. 最も広い範囲を「国（くに）」、その下に「里（さと）」、末端に「郡（むら）」を置いた。
- 問13 墾田永年私財法の制定によって、資金や労働力を持つ貴族や有力な寺院は大規模な土地の開墾を進めるようになりました。その結果、各地で形成された私有地のことを何といいますか。 (2018年 山形県公立入試 類似)
1. 国衙領                      2. 公領                      3. 荘園                      4. 地頭請
- 問14 奈良時代の税制では、田地に対して課される「租」のほか、17歳から65歳の男子に課される「調」、21歳から65歳の男子に課される「庸」などの重い負担がありました。こうした状況下で、政府が「墾田永年私財法」を制定した直接的な目的として最も適切な説明はどれか。 (2024年 静岡県公立入試 類似)
1. 地方の農民に土地を分け与えることで、都での労役や特産品の納入といった負担をすべて免除するため。                      2. 戸籍に基づいた土地の配分制度を強化し、6歳以上の男女に与えられる口分田の面積を全国一律に拡大するため                      3. 全ての土地を国家の管理下に置き直すことで、有力な貴族による土地の独占を防ぎ、公平な徴税を行うため。                      4. 土地の私有を認めることで人々の開墾意欲を高め、不足していた田地を増やして税収を安定させるため。

## 答え合わせ・解説

|     |                                                                     |                                                                                                                                                                                          |
|-----|---------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 問1  | 答え 3<br>調と庸                                                         | 律令国家の税制では、6歳以上の男女に与えられた口分田に対して課される「租」のほかに、成人男性の負担として、地方の特産物を納める「調」と、年間10日の都での労役（歳役）に代えて布を納める「庸」がありました。また、これら以外にも九州北部の警備にあたる「防人」などの兵役も課されていました。                                           |
| 問2  | 答え 3<br>天皇や貴族だけでなく、防人や農民など幅広い階層の人々の和歌が収められている。                      | 奈良時代の文化を代表する『万葉集』は、約4500首の和歌を収録した日本最古の歌集です。山上憶良のような貴族や歌人だけでなく、東国の農民の歌（東歌）や、九州の警備に当たった人々の歌（防人の歌）など、身分を問わず当時の人々の素直な感情が詠み込まれている点が最大の特徴です。                                                   |
| 問3  | 答え 4<br>当時の唐は広大な帝国であり、シルクロードを通じて世界中の文化が集まっており、日本は遣唐使を通じてそれらを吸収したため。 | 奈良時代の文化が国際的な性格を持つ背景には、唐の都である長安が「シルクロードの終着点」として機能していたことが挙げられます。長安には西方から多様な文物が流入しており、日本は遣唐使を派遣して唐の優れた制度や文化とともに、間接的に西アジアやペルシアなどの工芸技術やデザインを取り入れました。モンゴル帝国の影響は鎌倉時代の元寇以降の時期に関する記述であり、時代が異なります。 |
| 問4  | 答え 4<br>鑑真                                                          | 鑑真は唐の時代の中国で高名な僧であり、日本の僧侶に正しい規律を伝える「伝戒師」として招かれました。当時の航海は命がけであり、何度も難破や妨害に遭いながらも、12年という歳月をかけて来日を果たしました。彼は奈良の唐招提寺を拠点に、日本の仏教における制度（戒律）を整える上で極めて重要な役割を果たしました。                                  |
| 問5  | 答え 3<br>万葉集                                                         | 万葉集は奈良時代末期に成立した日本最古の歌集です。その最大の特徴は、収録されている歌が天皇や貴族といった特権階級のものだけでなく、防人や農民といった庶民の歌まで含まれている点にあります。これに対し、古今和歌集は平安時代に成立した最初の勅撰和歌集であり、時代や性質が異なります。                                               |
| 問6  | 答え 2<br>聖武天皇                                                        | 奈良時代には天然痘の流行や藤原広嗣の乱などが起こり、社会が不安定な状況にありました。当時の天皇は、仏教の加護によってこれらの災いから国を守るという「鎮護国家」の思想を重視し、地方行政単位である「国」ごとに国分寺・国分尼寺を建てることを命じました。聖徳太子は飛鳥時代の人物であり、天武天皇は律令国家の基礎を固めた人物、桓武天皇は平安遷都を行った人物です。         |
| 問7  | 答え 1<br>小野妹子の遣隋使派遣 → 大宝律令の完成 → 墾田永年私財法の制定                           | 飛鳥時代の607年に聖徳太子の外交として小野妹子が隋へ派遣され、大陸の制度を学びました。その後、701年に文武天皇のもとで大宝律令が完成し、本格的な律令国家の仕組みが整いました。しかし、奈良時代に入ると人口増加による口分田の不足が深刻化したため、743年に開墾した土地の永代私有を認める墾田永年私財法が制定され、公地公民の原則が崩れるきっかけとなりました。       |
| 問8  | 答え 1<br>公地公民                                                        | 大化の改新から律令国家の形成過程において、それまで豪族が私有していた土地や人民を国家が直接管理する方針が示されました。これが公地公民の原則です。この原則があるからこそ、国家は人民に「口分田」を貸し出し、死後には返還させるという再分配のシステムを運用することができました。                                                  |
| 問9  | 答え 1<br>庸                                                           | 律令時代の中心的な税制（租・庸・調）の一つです。もともとは都での肉体労働が義務付けられていましたが、その労働を免除される代わりに、一定の長さの布を納める仕組みが整えられました。これに対し、収穫した稲を納めるものは「租」、各地の特産物を納めるものは「調」と呼ばれます。                                                    |
| 問10 | 答え 1<br>鑑真と唐招提寺                                                     | 唐の僧侶であった鑑真は、当時の日本において不透明だった僧侶の資格制度を整えるため、正しいルール（戒律）を伝える役割を期待されて招かれました。鑑真は来日後、奈良に唐招提寺を建立し、日本の仏教の発展に大きく貢献しました。行基は東大寺の大仏造営に協力した僧であり、最澄と空海は平安時代初期に新しい仏教（天台宗・真言宗）を広めた人物です。                    |
| 問11 | 答え 1<br>租                                                           | 奈良時代に整えられた律令制では、6歳以上の男女に口分田を与える「班田収授の法」が運用されていました。この口分田という土地に対して課された税が「租」であり、収穫した稲を納める義務がありました。これに対し、庸や調は主に成人男性に課された負担です。                                                                |
| 問12 | 答え 2<br>最も広い範囲を「国（くに）」、その下に「郡（こおり）」、末端に「里（り）」を置いた。                  | 大宝律令などに基づき、全国は「国（くに）」、その下の「郡（こおり）」、さらにその下の「里（り）」という単位で編成されました。国には国司、郡には郡司が置かれ支配が行われました。                                                                                                  |
| 問13 | 答え 3<br>荘園                                                          | 墾田永年私財法により土地の私有が永久に認められると、経済力のある貴族や大寺院は付近の農民を使い、大規模な開墾を行って私有地を拡大させました。これが荘園の始まり（初期荘園）となり、律令制の基本であった公地公民制（土地はすべて国家のものとする原則）が崩壊していく大きな要因となりました。                                            |
| 問14 | 答え 4<br>土地の私有を認めることで人々の開墾意欲を高め、不足していた田地を増やして税収を安定させるため。             | 当時は人口の増加により、農民に与える口分田が不足し、政府は税（租）を徴収する基盤を失いつつありました。そこで、苦勞して開墾した土地が一定期間で国に没収される仕組みを改め、永年私有を認めることで、田地を開墾する動機づけを行いました。                                                                      |